

県労連 あおもり

2015年4月5日 第295号

発行所 青森県労働組合総連合(青森県労連)
〒030-0852 青森市大野若宮 165-19 Tel 017-762-6234
発行人 青森県労働組合総連合(毎月5日発行) 定価 10円
1992年10月30日 第三種郵便物認可
本紙の購読料は組合費に含まれています。

「3・11」集会に1200名 八戸集会に120名

3月15日、青森県労連も加盟している「なくそう原発・核燃、あおもりネットワーク」が主催する、「さようなら原発・核燃」3・11「青森集会」が青森市文化会館で、1200名の参加で開催されました。この集会は、東京電力福島第一原発事故の翌年2012年から毎年開催され、今年で4回目となります。大竹進共同代表が「青森の原発、核燃料政策が変われば、日本も変わる」とあいさつしました。講演は青森の民放ラジオのパーソナリティをつとめる詩人アーサー・ビナードさんが「津軽海峡・核の冬景色」という演題で、「原発を造る時代はとっくに終わっている。国は原子力政策を見直すべきだ」と訴えました。このあ

と、函館市の「大間原発訴訟の会」の竹田とし子代表などが運動報告し、「原発にも核燃施設にも頼らず、未来の子どもが安心して暮らせる青森県のため闘おう」との集会決議を拍手で採択しました。参加者は県庁までデモ行進して「原発いらぬ! 再処理やめ

ろ!」とシュプレヒコールをあげました。県労連は、場内整理、カンパの集約、デモ行進の整理を担当、集会成功に寄与しました。同日、八戸市の「はっち」を会場に、「なくせ! 原発核燃三八連絡会」の主催で集会が開かれ、120人が参加しました。DVD「あ

やまれ つぐなえ なくせ 原発・放射能汚染」を15分ほど上映した後、いわき市労連事務局長の菅家新氏が、「福島は今を語る」と題して講演を行いました。集会終了後、中心街をパレードし、「原発いらぬ! 再稼働反対」とコール、市民に訴えました。



県庁に向かってシュプレヒコールするデモ隊



八戸 中心街をデモ行進

大幅な賃上げ 労働法制改悪反対

「重税反対、くらしと雇用守れ! 3・13青森集会」が3月13日(金)青い森公園で開催されました。

主催者代表の県労連奥村議長のあいさつ後、主催団体である青商連、新婦人保険医協会、農民連、民医連、県労連から、それぞれの抱えている課題を中心とした発言がありました。県労連を代表して発言した県国公の伊藤事務局長は、労働法制改悪策動につ



雪が舞う中の3・13青森集会

いて「残業代ゼロ制度である高度プロフェッショナル

制度は、一定の職務や年収1075万円以上の労働者を労働時間規制の対象外とし、何時間働いても規制はなく、残業代や夜間・休日出勤の手当もなくすもの」として厳しく批判しました。また、労働法制審議会での労働者側委員の反対意見を無視した進め方に対して、「三者構成で審議してきたこれまでのルールを踏みにじり、言語道断」と切り捨てました。当日は、前日までの吹雪の影響もあり、雪を踏み固めての集会となりましたが、60名の参加となりました。

深刻な労働相談相次ぐ

3月6日全国いっせい労働相談が提起され、青森県労連でも「ブラック企業&雇止め労働相談ホットライン」と銘打って実施した。事前にチラシ2500枚を作成し、団地・雇用促進住宅等での毎戸配付、マスコミへの投げ込み、新聞への折込を行なった。当日は朝日放送で取材があり、昼のニュースで放送された。相談者は午前中に2名の来所者があり面談で相談を受けた。午後はテレビ放送を見た方から電話相談があった。

この2か月くらいは深刻な相談が多く寄せられ、ひだまりへの加入で団体交渉をする割合が高くなっている。青森・弘前・八戸と立て続けに団体交渉が配置され、また、交渉まで行かなくても折衝の段階で解決する事案もあり大賑わいで、まだ5ヶ月目の鎌田委員長もてんてこ舞いの状態が続いている。これで労働法制改悪が強行されればどうなるのか労働者の命にかかわる問題であり闘いの急展開が求められている。(今)

メーデーに参加を

- 第86回メーデーが県内6か所で開催されます。昨年から県中央集会在青森市副市長と東北労金青森県本部長からあいさつをいただきました。また、三村知事からメッセージをいただきました。
- 県中央集会 10時 青い森公園
- 中弘南黒地区集会 10時 弘前駅前公園



釣り大会 休止の お知らせ

県労連と保険医協会主催のつり大会がこれまで17回実施されてきましたが、ここ数年は釣果が不振なため、今年の実施を見合わせることにしましたのでご了承ください。

素直でさりげない言葉で7年前に書かれたある詩がツイッターで爆発的に拡散され、様々な媒体で注目されて一冊の本になった。それが以下に紹介する『明日戦争がはじまる』だ。詩を書いたのは高知県出身の詩人、宮尾節子さん。『まいにち』満員電車に乗って／人を人とも／思わなくなつた／インターネットの／掲示板のカキコミで／心を／心とも／思わなくなつた／虐待死や／自殺のひんばつに／命を命と／思わなくなつた／じゅんぴ／は／ぼっちりだ／戦争を戦争と／思わなくなるために／いよいよ／明日戦争がはじまる／昨年末の衆議院選挙の際、テレビのインタビュアーや新聞記事では「興味がない」「よ／く／わ／か／ら／な／い」「私一人が投票したところで変わら／ない／と／思／う」などの言葉をよく見聞きした。その一方で、政治の世界では様々なことが日々決まってい／き、私たちの生活に影響を与えている。それでも私たちは無関心でいてよいのだろうか、この詩を通して思わされた。『今年』は戦後70年の節目の年。「戦争準備法」成立や「憲法改悪」にむけた策動など、安倍政権の暴走は加速する一方だ。私たちの何気ない日常。でも、アタリマエのものなどなにもないはず。その奇跡に気づくことが大事なのではないだろうか。(ノリ)

